

Hello! FUJISEI

No.243

研究によって、胃がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん、大腸がんの5つのがんは、検診により早期に発見・治療を行うことで死亡率が低下することが科学的に証明されています。

厚生労働省が発表した「平成25年度地域保健・健康増進事業報告の概況」によると、平成25年度に市区町村が実施したがん検診の受診率は、「胃がん」9.6%、「肺がん」16.0%、「大腸がん」19.0%、「子宮頸がん」31.1%、「乳がん」25.3%となっています。また、平成24年度に市区町村が実施したがん検診における要精密検査者のうち、「がんであった者数のがん検診受診者数に対する割合」は「胃がん」0.11%、「肺がん」0.04%、「大腸がん」0.18%、「子宮頸がん」0.08%、「乳がん」0.32%でした。

市区町村のがん検診受診率の分布をみると、受診率が「50%以上」と高い市区町村数は「子宮頸がん」349（全国市区町村数に占める割合20.1%）と最も高く、次いで「乳がん」が269（同15.5%）となっています。一方、受診率が0～10%未満と低い市区町村数は、「胃がん」が626

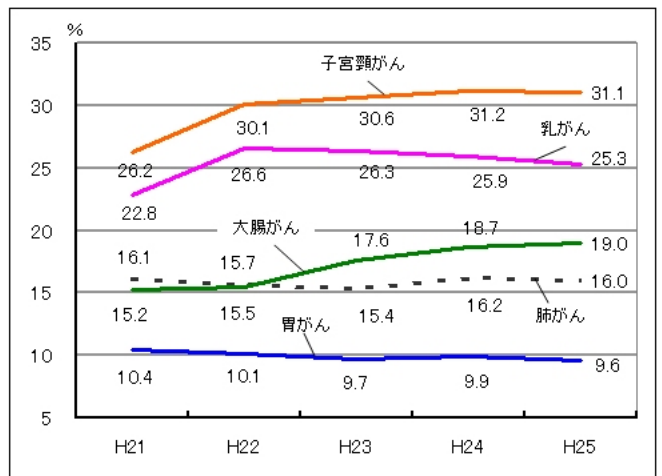
がん検診

早期の発見・治療で死亡率が低下する

（同36.0%）と最も多く、次いで「乳がん」393（同22.6%）となっています。前の調査についても算出し直しています。

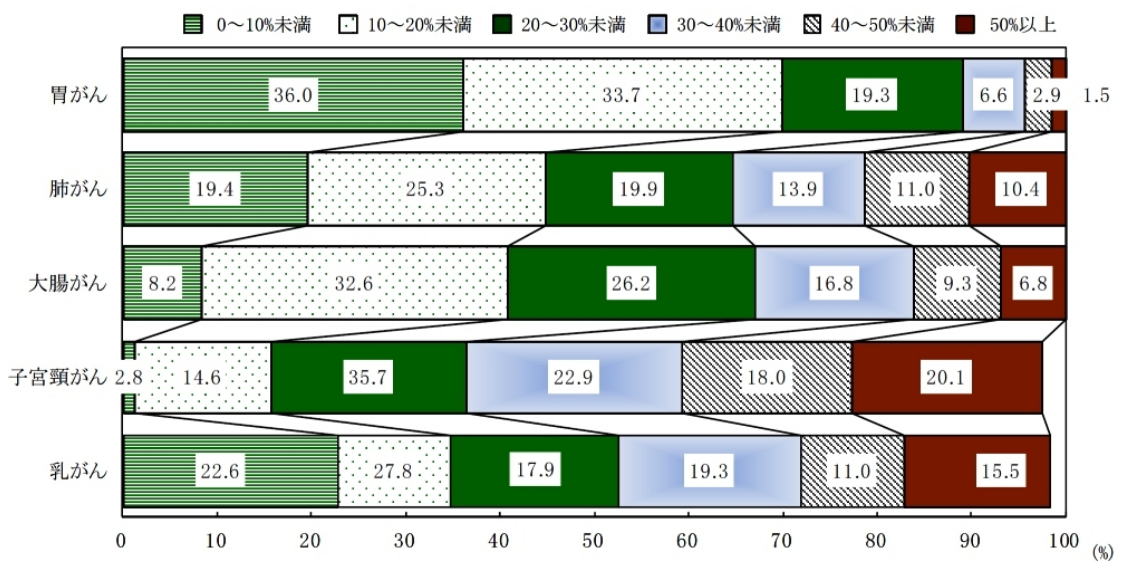
なお、「がん対策推進基本計画」（平成24年6月8日閣議決定）に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢を40歳から69歳まで（「子宮頸がん(子宮頸がん)」は20歳から69歳）としており、平成25年度調査から、この対象年齢にあわせて算出するとともに、平成24年度以

がん検診受診率の年次推移



(注) 1. 平成22年度は、東日本大震災の影響により、岩手県、宮城県、福島県の一部の市町村が含まれていない。
2. 受診率は、計数が不詳の市区町村を除いた値。
3. 子宮頸がんは、平成24年までは子宮がん検診として調査。

市区町村におけるがん検診受診率の分布状況



厚生労働省「平成25年度地域保健・健康増進事業報告の概況」